

## 鉄道のまち -美濃太田駅開業100年- 文化の森 ☎28-1110

今年で美濃太田駅は開業100年。「鉄道のまち」の歴史の一部を紹介していきます。



1921-2021

### ⑦ 美濃太田機関庫と美濃太田機関区ディーゼル基地

美濃太田駅は開業以後、高山本線だけでなく越美南線、太多線が乗り入れる中濃地域の主要駅となりました。

昭和7(1932)年4月1日、三線を走る機関車の整備や修繕を行うために、駅の西北に美濃太田機関庫が設置され、扇形の車庫、車両を回転させて向きを変える転車台、給炭設備、車両の検修用車庫、乗務員の宿泊施設などが備えられました。

戦時中、昭和20(1945)年8月14日に美濃太田機関区は機銃掃射を受け、2人の犠牲者の他に機関車8両や建物にも被害を受けました。扇形車庫は取り壊されて今はありませんが、転車台は現在も残されています。

昭和31(1956)年に、高山本線に気動車(ディーゼル車)導入後、美濃太田機関区にも気動車が増加する気動車を管理するために、昭和41(1966)年、

川合町に美濃太田機関区気動車基地(通称ディーゼル基地)ができ、気動車配置数69両、検修要員74人で業務を開始しました。その後の管理体制の見直しによって、現在、美濃太田駅にある施設は美濃太田運輸区、川合町の施設が美濃太田車両区と呼ばれています。



▲美濃太田機関区(昭和41年頃)

文化の森企画展「鉄道のまち展」  
(12月18日～3月6日)を開催中